

反差別国際運動（IMADR）  
インド・ダリット子どもデイケアセンター・プロジェクト  
概要・活動記録（2007年5月現在）

---

1) プロジェクトの概要と目的

---

インド・タミルナドゥ州の17村において、パートナー団体である農村教育開発協会（SRED）とともに、ダリット（カースト制度下「不可触民」として差別されてきた人びと）の子どもたちに教育機会を提供するためのデイケアセンターを設置・運営する。インド・タミルナドゥ州の農村部で、ダリットは「不可触」の「穢れた」ものとして、公の場であらさまな差別をされたり、居住地が隔離されたりしている。その結果、教育へのアクセスを奪われ、劣悪な生活環境を強いられている。農村地域のダリットは土地をもたず、債務労働者として働く。こうした状況のもとで、児童労働への従事や、学校での差別などが原因となり、中途退学するダリットの子どもたちが非常に多い。

上記状況に鑑み、主にダリットの子どもたち対象としたデイケアセンターを、州内17の村に設置することを目指すプロジェクトを展開しており、これまでに6つのセンターを設置することができた。その一環として今年度は、その6つのセンターの運営を確実にするとともに、1村における新規設置を目指している。

プロジェクトの第一の目的は、子どもたちに安心と自信を与え、基礎的な学習の場を確保するとともに、差別をはね返し立ち上がる力をはぐくむことである。第二の目的は、ダリット当事者による運動の組織化の端緒をつけることである。センターでの子どものケアを地域の若手女性リーダーが担い、村の住民もセンターの維持・運営に携わることで、その第一歩を目指す。第三の目的は、設置されたセンターを、子どもの教育・保育施設としてだけでなく、ダリットの子どもと女性が主役となるダリット解放運動の拠点としても機能するコミュニティセンターに発展させることである。

センターの設置候補地は、貧困や子どもの不登校、児童労働、また、当事者運動の組織化の状況など、さまざまな要素を総合的に判断して決定されている。1つのセンターには、1～15歳までの子どもたち20～25人前後が通う。

---

2) 背景

---

ダリットは子どもたちに、おたがいに競い合うような教育的環境を、ほとんど用意してやることができない。しばしば放置されるダリットの子どもたちは、他の家族とともに強制的に労働者として働かされる。ダリットは、子どもたちを学校に送るだけの余裕がないのが実態である。中途退学はダリットの間では大きな問題となっている。初等レベルに入学したダリットの子どもたちのうち、およそ80%は、貧困のために中途退学を余儀なくされ、他の子どもたちと競い合うことができない。ダリットの親たちの多くはほとんど読み書きができず、教育の重要性を自分の問題として感じるができない状況にあり、子どもたちに勉強を続けるように強く言うこともない。こうした子どもたちが成長しても、まともな仕事に就けるだけの必要な技能を備えられない。結局のところ、男女を問わずダリットの子どもたちが教育を受けないことで、児童労働へと追いやられる悪循環が起きている。ダリットの少女は特に、弟妹の世話をするという名目で教育の機会を奪われている。

タミルナドゥでは、農村地域に住むダリットは、識字率は42.50%にとどまっている。さらに、農村地域での男性識字率は54.42%に対し、女性識字率はわずか30.30%に過ぎない。

以下は、ダリットが子どもたちに教育を受けさせる際に直面する様々な問題の一部である。

- ・ 家族から女性を学校に行かせることへの抵抗。
- ・ 村の治安に対する不安
- ・ 住居・学校・交通・医療施設などの物理的施設の不足
- ・ 女子に対して親が働きに出ている間の兄弟姉妹の世話の強制
- ・ 女子に対して家事の強制(学校への出席の妨げとなる)
- ・ 家計のための労働(女子の学校への出席の妨げとなる)
- ・ 家から学校までの距離
- ・ 子どもたちに恐怖心を植え付けるような、不適切な内容の教育システム

---

### 3) デイケアセンターの設置概要

---

上記の現状認識のもと、以下の 17 村におけるデイケアセンターの設置を目指す。確保された資金に応じ、徐々に設置・運営対象を拡大する。現在の設置・運営状況は以下のとおり。

#### 既に設置され運営が開始されたセンター（6つ）

- アナンダプラム（Ananthapuram）村（Arakkonam）
- ムルウォイ（Mulvoy）村（Verllore / Arakkonam）
- カラル（Kallaru）村（Verllore / Arakkonam）
- パラウォイ（Palavoy）村（Verllore / Arakkonam）
- ムトゥール（Muthoor）村（Verllore / Arakkonam）
- カヴェリラジャプラム（Kaverirajapuram）村（Chingleput）

#### 新規設置が決まり建設を準備しているセンター（1つ）

- ティルワランガドゥ（Thiruvallankadu）村（Chingleput / Tiruttani）

#### 今後の設置・運営候補地（10村）

- ナドゥムバラム（Nedumbaram）村（Chingleput / Tiruttanani）
- ベーラクuppam（Beerakuppam）村（Chingleput / Tiruttani）
- ヴェンカッタプラム（Venkattapuram）村（Thiruvallur）
- ウリアムバッカム（Ulliambakkam）村（Verllore / Arakkonam）
- コナラム（Konalam）村（Verllore / Arakkonam）
- ペリヤール（Periyar）村（Chingleput / Tiruttani）
- ペルムチ（Perumuchi）村（Vallore）
- ティルタニ（Tiruttani）村（Chingleput / Tiruttani）
- アラコナム（Arakkonam）町（Verllore / Arakkonam）
- ピチャヴァッカム（Pichavakkam）村（Arcot 北部 / Thiruvallankadu）

#### 4) 各デイケアセンターの活動記録

SRED は IMADR のサポートにより、6 つのデイケアセンターを発起/設立した。この報告は 2005 年 10 月から 2007 年 3 月までのセンター活動記録である。

##### カラル村

デイケアセンターは午前 9 時に始まり午後 5 時に終わる。肉体労働者や作業者の子どもたちは、カラルから 3 キロメートル離れたアルギラパディのイルラの住んでいる地域からデイケアセンターに通っている。

センターは、3 歳から 5 歳までの約 20 人の子どもたちの素晴らしい庇護所となっている。子どもたちには、衣服、食事が支給され、朝と夕方には紅茶、ビスケットが与えられる。子どもたちは安全に登校し、教師は子どもたちが安全に帰宅するよう保証している。センターでは、意識向上をもたらす道德、物語、ゲームが教えられている。したがって、親は何の心配も困難もなく、自分の子どもたちを預けている。野菜、牛乳、栄養のある豆が、子どもたちに与えられている。デイケアセンターで子どもたちは水浴し、そして、清潔できちんとした衣服を与えられている。

デイケアセンターの子どもたちには、健康管理が行なわれ、医療補助が与えられている。アリギラパディの障害を持ったある女の子には、医療援助がなされて義肢装具が支給された。

##### ムルウォイ村

約 75 のダリットの家族と 175 の他カーストの家族がこの村に住んでいる。3 歳から 5 歳までのダリットの子どもたちが、デイケアセンターに入所した。託児所は午前 9 時に始まり夕方の午後 5 時に閉まる。子どもたちは、歌、物語、アルファベット、リズム、規則を教えられる。また、きちんとした衣服、昼食、紅茶、ビスケットが与えられている。

##### アナンダプラム村

アナンダプラム村は、町から 6 キロメートル離れた、きちんとした交通手段や道路設備が整備されていない村である。彼らの仕事は、種まき、刈取り、砂糖キビの刈り入れ、建設現場の仕事、花摘み等である。女性たちは多くの問題を抱え、仕事の最中に、自分の子どもの面倒を見ることが困難である。

アナンダプラムの初等デイケアセンターは現在、彼/彼女らの良き後ろ盾となっている。労働者は、自分の子どもをセンターに午前 9 時に連れて来て午後 5 時に迎えに来る。子どもたちには、昼食、朝には紅茶、菓子が与えられている。そして、ゲームを通した学習が行なわれ、礼儀作法、清潔、意識向上等が教えられている。

##### パラウォイ村

パラウォイ、シルヴェルペット、3 キロメートル離れたアグラヴァラムの子どもたちが、デイケアセンターにやって来る。3 歳から 5 歳の約 15 人の子どもたちが入所登録されている。昼食、そして、朝と夕方には紅茶とお菓子が与えられている。子どもたちは易しく簡単な物語、歌、ゲームなどを学ぶ。また、ペン、鉛筆、マジックペン、石版、ノート、制服が、子どもたちには提供されている。また、衛生指導も行なわれている。このような施設が他にないために、これまでどの機関においても教育の機会が与えられてこなかった。

##### カヴェリラジャプラム村

この村には、360 世帯のダリットとイルラ（先住民族）、400 世帯の他カーストが混住している。ダリットは土地を持たず、イルラの多くは移住生活をしている。近年、農業工程の変化によって、日雇いや季節労働の機会も激減しており、薪売りなどの換金作物などに生計手段が限られてきている。

センターは、2005 年末に村の既存の建物を改築し、2006 年 1 月に運営が開始された。ダリットとイルラの子どもたち約 20 人が通い、身の回りの整理や振る舞いを身につけ、自信をもって学校に通えるよう就学前の子どもたちが準備をしている。毎日、昼食とスナック、紅茶が振舞われる。先生は、10 学年（16 歳）を修了したダリット女性が担い、子どもたちの世話・教育に関われる喜びを語っている。

親は、仕事中に子どもを安全なところに預けられることに安心感を抱くとともに、子どもたちがセンターで学んでいることを実感し希望を抱いている。センターの掃除や備品の修理など、センターの維持・運営に協力的である。資金運営については、先生が親に毎月 5 ルピーでも積み立てようと呼びかけてはいるものの、現実的にはまだまだ困難な状況である。

センターでは縫製訓練も行なわれており、学校を中退した少女や中等教育を修了した女性たちを含む 40 歳までの多様な年代の女性たち（15 人前後）が通っている。訓練を終えた女性たちは、縫製会社で職を得たり、村のマーケットで売ったりして生計を立てている。

マタマ（ヒンドゥー教の宗教慣習にもとづく性奴隷・性暴力被害者）の活動拠点も同敷地内にあり、センターはこれらの会合などにも活用されている。

#### ムトゥール村

この村には 1500 人のヴァニヤルの人びとと 250 世帯のダリットの家族が住んでいる。ダリットの人びとのすべてのニーズは、他のカーストの人びとによって左右される。他のカーストの人びとによって、ダリットは活動を制限され、ひどい扱いを受けている。この村は下位カーストへの暴力で良く知られている。この村では、下位カーストへの暴力が 3 回発生している。最近の暴動では、10 人のダリットが、傷害を加えられた。

ダリットの子どもたちは、学校への入学を認められなかった。したがって、ダリットの地域において、重要な福祉施設が開設された。しかし、ダリットの子どもたちは他のカーストの子どもと交流することを許されていない。現在、SRED が、適切な手段を講じて、ダリットの子どもたちが適切な教育や知識、指導を受けられるように、建物（デイケアセンター）の建設に関わっている。20 人のダリットの子どもたちが、現在デイケアセンターに入所する予定であり、開設後は牛乳やビスケット、ボールペン、鉛筆、玩具、制服、昼食が与えられることになる。

#### ティルワランガドゥ村

助成金申請当初は、パリヤンクッパム村でのセンター設置が予定されていたが、村の諸事情により、設置先が変更となった。ティルワランガドゥ村は、イルラ（先住民族）の人びとが生活する村であり、2 キロも離れたところにしか学校がない。センターの設置場所が決まり、現在建設にむけて準備中である。